

いまもあしたも誇れる座間であるために…

発行者：おぎはら健司
メールアドレス：info@ogiharakenji.com
連絡先：042-719-4972 (ファックスも同じ)

おぎはら健司の市政レポート

平成28年度の座間市の財政状況

去る9月29日に閉会した「平成29年第三回定例会」では、平成28年度決算認定などの議案審査が無事に終わり、当局から提出された議案は全て可決・認定されましたが、今回のレポートでは、座間市の財政状況について総体的にお伝えしてまいります。

H28年度決算総額は過去最高規模を更新し、内訳は歳入総額が413億7,770万円余(対前年度比1.2%増)、歳出総額は402億8,964万円余(対前年度比2.2%増)となりました。

歳入の根幹である市税収入は、184億6,892万円余で(※市税とは、市民税(個人・法人)・固定資産税・都市計画税・軽自動車税・市たばこ税です)、対前年度比2.0%減となり、歳入全体に占める割合としては44.6%となっています。

法人市民税が減収となった事は前号でもお伝えしましたが、そのような厳しい財政状況下、地道に取り組まれてきた収納体制強化という点について、コンビニ・ペイジー収納制度が市民の間で浸透した点、特に軽自動車税については平成26年度には40%程度の利用率であったものが、この年度には83.6%まで向上した事に加え、県・国税事務所を退職された方を再任用する事で、ノウハウを活かした徴収事務が遂行され、地道な財産調査や滞納処分、不動産公売などを積極的に進めた結果、市税全体の収納率は0.6%改善され、税負担の公平性という観点からも意義ある対応がなされていると言えます。

その他の歳入の主な状況は、国庫支出金が80億2,345万円余増で3.6%増、県支出金は23億3,853万円余増とこちらは3.0%増となっていますが、地方交付税は4億665万円余、17.7%の大幅減となりましたが、これらの歳入減に対応できたのが、前号でもお伝えしたとおり、年度間調整機能を有する、これまで順調に積立をしてきた「財政調整基金」の存在です。

歳出については、事務的に支出がなされる経常的経費は323億530万円余となり、詳細を確認すると、社会福祉・児童福祉・生活保護費等の民生費が、平成24年からの五カ年で13億円ほど増加していることが見えてきます。

また、投資的経費である普通建設事業費については、新消防庁舎建設事業費や小学校施設整備事業費、小田急相模原駅西地区市街地再開発事業や芹沢公園の工事費など引き続き積極的な施策推進があり、平成27年度とほぼ変わらない34億1,038万円余が執行されています。

風雲急を告げています！

ところで、衆議院が解散され、政権選択となる衆院選の準備に大忙しといったところですが、私の住む「座間市相模が丘」は新たに神奈川県第16選挙区に編入される事から、古巣である13選挙区の甘利代議士と16選挙区の義家先生両方のお手伝いをさせて頂くことになりました。

野党の大再編の落ち着き先が気になるのですが、有識者に伺うと、この度の野党再編は違和感があると言わざるを得ないようです。

批判をするつもりはありませんが、衆議院議員を辞して、それまで所属していた自民党と喧嘩別れするような形で東京都知事選挙に立候補し当選、都政に邁進するとおっしゃっていた中行われた都議選で絶対的な勝利を納められたかと思いきや、再び国政への足掛かりを模索されている姿や、その人気にすがり付こうとする姿に、この国の将来への『希望』を託せない個人的には考えています。

ムードに流されて成功、長続きした事例が過去には存在しない(平成5年の非自民・非共産連立政権の細川内閣や平成21年の民主党による政権交代など)事をしっかり伝え、これからも国際社会で存在感を示すべく、政治基盤の安定の必要性を訴えてまいります。